●脇町エリア

うだつが上がるまち

藍で栄えた商家の町並み
暮らし息づく
なつかしいふるさとの遺産

福聞寺

脇町劇場

吉田家住宅

脇町の南町、中町周辺には、風情豊かな町並みが残されています。角材の組み合わせが楽しい「格子造り」、光を操る「しとみ戸」、漆喰の壁に豪華さをそえる「むしこ窓」。そぞろ歩けば、過ぎ去った時代にタイムスリップしたような、なつかしさを覚えます。この町並みの大きな特長は、「うだつ」が上がっていること。「うだつ」とは、町屋に見られる袖壁のことで、防火の役目を果たし、火よけ壁とも呼ばれます。江戸時代に、富裕な商家が「うだつ」をあげたことから、一向に出世ができないことを「うだつが上がらぬ」というようにもなったのです。

こうした豪奢な町並みは、どうして造られたのでしょうか。天正13年（1585）蜂須賀氏が藩主となってからは徳島藩では藍の栽培を奨励し、大いに保護しました。その藩主の第一家老・稲田植元が脇城に入り、阿波藍の流通が、この地で盛んになったのです。ここは、鳴門から続く撫養街道と、香川県から峠を越えてくる街道が交わり、吉野川のほとりに位置し、流通の要となるには大変ふさわしい土地でした。やがて、藍を扱う商家が街道沿いに建ち並び、江戸から明治にかけて華やかな活気に満ちた町並みとなりました。

そして、今も暮らしが息づく「うだつの町並み」は、昭和63年、国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、平成8年には官民一体の町づくりとして、「脇町、うだつの町並みボランティアガイド連絡会」が結成されました。さらに平成19年2月16日「美しい日本の歴史的風土100選」にも選定されました。

旧長岡家住宅

ふるさとワンポイントガイド

脇町.うだつの町並み
ボランティアガイド連絡会
正木 文子さん

小説家の司馬遼太郎先生の「街道を行く」にも書かれた「うだつの町並み」は、先人の知恵と思いやりが詰まった暮らしの文化遺産。メンバーは、この町で生きる誇りを持ってガイドを行っています。430メートルの町並みには、鬼瓦一つをとっても、多くの物語がひそんでいるのです。

日本が失いかけた大切なものに、脇町で出会ってください。